

RCC スクール

# 「#湯崎知事と語ってみた」 in 広島

とき 令和4年4月26日（火）

ところ イノベーションハブ広島 Camps

## 目次頁

開会 .....	2
自己紹介 .....	2
ひろしまビジョン説明 .....	3
意見交換①（祇園北高校・広陵高校・広島学院高校・大竹高校） .....	4
意見交換②（話題提供） .....	7
閉会 .....	15

## 開 会

- 司 会： それではお待ちいたしました。RCC 開局 70 年「広島大家族。プロジェクト RCC スクール 湯崎知事と語ってみた」開会です。  
明るい雰囲気でありありがとうございます。知事，なかなか和やかな雰囲気ですよ。
- 湯崎知事： 明るくていいですね。
- 司 会： 今日高校生と湯崎知事，語っていただくということなんです。こういう機会って湯崎知事どうですか，あまり多くはないですか。
- 湯崎知事： こうやって直接，高校生だけとってというのはないですね。  
前はずっと県内のチャレンジトークとか宝探しとかをやっていて，各地域で地元の皆さん出てきてというのはあったのですが，それは高校生とか中学生とか出てくることはあるのですが，全員，高校生というのはないですね。
- 司 会： 今日，知事からもいろいろなお話ありますが，逆に我々も今の世代はこうなんだということをお勉強させていただきたいと思います。  
なお，この模様は RCC 公式アプリ IRAW，そして RCC スクールホームページでライブ配信しております。ライブ配信しておりますが，緊張しないように皆さんよろしく。配信していないくらい気持ちでお願いしたいと思います。

## 自己紹介

- 司 会： それでは，まず皆さん自己紹介をお願いしたいと思うのですが，高校生の皆さん，祇園北高校，室元さんからお願いします。
- 室 元： 祇園北高校 3 年，野球部の室元です。  
今日は湯崎知事に聞きたいことがたくさんあるので，いっぱい意見交流ができたらいいなと思っています。お願いします。
- 鈴 木： 同じく，祇園北高校 3 年生，野球部マネージャーの鈴木です。  
今日は皆さんといろいろとお話ができたらうれしいなと思っています。よろしくお願いします。
- 掛 川： 広陵高校 2 年生の掛川碧生です。よろしくお願いします。
- 沖 本： 広島学院高校 3 年の沖本英太郎です。  
湯崎知事とか県に対して思うことも結構あったりとか，逆に聞きたいこともいっぱいあるので，今日はいいイベントになればなと思っています。よろしくお願いします。
- 司 会： 一瞬ドキッとしましたが，いろいろと聞かせてください，お願いします。  
大竹高校からお二人です。
- 佐々木： 大竹高校 3 年生の佐々木笑花です。  
今日はいろいろな話が聞けたらいいなと思っています。よろしくお願いします。
- 藤 川： 同じく大竹高校 3 年の藤川琴美です。  
みんなのいろいろな意見が聞けたらいいなと思っています。よろしくお願いします。
- 司 会： よろしくお願いします。  
なお，公式 YouTube でも現在御覧いただいております。今後こういったことをかさねていきますので，参加したいという方，どしどし RCC のホームページなど御覧いただきたいと思っています。  
予定していなかったのですが，せっかくなので知事も自己紹介お願いしてもいいですか。
- 湯崎知事： はい。広島県知事の湯崎英彦です。  
多分，もう皆さんが小学校低学年ぐらいの頃から知事をやっているのですが，だいぶ長くなっちゃったなと，みんなが大きくなっている姿を見るとつい思っちゃうんですけどね。  
皆さんの若いエネルギーも吸収して頑張っていきたいと思っていますので，よろしく申し上げます。
- 司 会： よろしく申し上げます。  
そして司会をさせていただきます，RCC アナウンサーの坂上俊次です。よろしくお願

します。

RCC今年70周年ということになりまして、この節目の年に湯崎知事と県内の高校生が、広島のとくか広島の未来とか、そうじゃなくてもざっくばらんに、いろいろと語ろうという場です。

## ひろしまビジョン

司 会： 未来の広島県を担う高校生の皆さん、生の声を聞きたいということなのですが、まずは湯崎知事から「ひろしまビジョン」この概要も含めてお話いただきたいと思います。

湯崎知事： 改めて今日はこういう機会、本当に皆さん参加いただきありがとうございます。

この会、高校生の皆さんというのは、まさに未来の広島を担っていく人たちなので、そういった皆さんの今のこの状況というか、どんなものに興味あるのかとか、どんなことに夢中になっているのかとか、そういったことを聞かせていただければと思います。先ほどもちょっとありましたが、そういうことも含めて教えていただければと思います。

意見交換の前に広島県のひろしまビジョン、「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」について簡単に御説明をしたいと思います。

これは広島県のいわば総合計画なんですけど、10年後の目指す姿、それからそれを実現するための取組ついてまとめたものになっています。

今から10年後といえば、今日参加している皆さん社会人、27、28歳ぐらいになっていて、本当に若者として力を出してくれているところだと思うんですね。進学とか仕事が始まったりとか、あるいは結婚している人もいるかもしれないし、人生の分岐点をいろいろと越えていると思うのです。

これからの将来と広島県の目指す姿というのを重ねてみて、共感できるなとか、あるいはこういうところが足りないなみたいなことがあったら、また意見交換できればと思います。

未来の話の前に今の課題ですが、これ小さくて見えにくいかもしれませんが、いろいろなことありますね、人口減少だとか、あるいはグローバルが進んでいるとか、デジタル化が進んでいるとか、いろいろなことがあります。

こういった状況の中でどうなるかというのを、本当に見通すというのはとても難しい時代です。こういう時代でも皆さんを含めた、次世代にしっかりと我々がバトンタッチをしていかなければいけないわけでありまして、そのために大体30年後ぐらいに、こういうふうになりたいなという姿を想定した上で、そこから10年後の目指す姿というのを引き戻して考えています。

30年後の本県のあるべき姿として、先行き不透明な時代においても、夢と希望を持ち、安心して健康に生きがいを持って暮らすことができ、それぞれの価値観に基づいた満足を実現できる社会というのを構想しているのですが、これだけだとちょっと抽象的で分かりにくいかもしれませんが、いろいろな分野がそれぞれその中にあるわけですが、そこから10年後にこうなっていないと、30年後にこうならないよねということで、10年後の目指す姿ということを決めているのです。

基本理念としては、将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現となっていて、その目指す姿というのを10年後に、県民一人一人が「安心」の土台と「誇り」によって、夢や希望に「挑戦」しています。仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現となっています。

目指す姿の実現に向けた基本的な考え方というには、イノベーションというのが非常に重要なのですが、イノベーションでしっかりとした経済基盤を作って、何かあったときにはセーフティーネットもしっかりと作ることで、将来に対する不安を軽くして、安心につなげることがまずあります。

その上で本県にある豊かな自然だとか、ものづくり産業といった技術だとか、いろいろな強みがあるわけですが、それを磨いていくことで誇りを高めていく。

安心の土台と誇りを高めることによって、県民の皆様が夢や希望を諦めることなく挑戦していただくということが、新しいビジョンの目指す姿となっています。

こうした挑戦へのさらなる一歩というのは県民の皆様が生きがい、働きがいになるし、それぞれの地域における活力を生み出して、広島県全体の発展だとか活性化につながっていくと考えています。

「安心」「誇り」「挑戦」の実現に向けて、いろいろな取組をやっているのですが、3

つの視点というのが、それを貫くものとしてあります。まず最初にあるのはデジタルトランスフォーメーション、DXと呼ばれますが、DXというのはビックデータだとか、デジタル技術を活用して生活に関わるあらゆる分野で、これまでのこのビジネスモデルだとか、文化に変革を起こすということです。

ちょっと難しいですが、一言で言うとデジタルで何か変えよう、よりよくしようということですが、例えば農業にDXを取り入れてデータを分析して、今農家の経験と勘に頼っているような、肥料いつやったらいいか、どれくらいがいいかとか、そういったことを見極めたり、ドローン使って水やりをやったり、収穫ができるとか、ロボットが収穫するかそんなことができる。

DXというのは、社会をより便利に豊かに変える可能性があるということで、デジタル技術を活用して県民の皆様が暮らし、例えば仕事の中でこれいいね、より便利だねとか、暮らしやすいねと実感してもらおう社会を実現していこうと。

「ひろしまブランドの強化」というのが次の2点目で、広島県にはいろいろな観光地だとか歴史文化とか、自然産業とかいろいろな強みがあるのですが、これらの全てにおいて、広島のブランドを意識した取組を進めて、この広島のブランド力を高めることで、選ばれ続ける未来の広島県を創造していくということです。

最後に人材育成で、変化が激しくて先行き不透明ですよ、そういうなかで自ら考えて、まず課題を発見しないといけないわけですが、そこからそこで解決策も提示をして、それを更に実行しないと変わりませんから、そういったことができる人材というのが求められるわけです。

そういった人を育てていくために、これは乳幼児期から社会人まで一貫した人材育成というのをやって、人生の途中にでもいろいろな変化が起きていきますから、学び直しが行えるような多様な機会を提供することで、あらゆる分野で社会の変化に対応して、新しい付加価値を創造できるような、将来に広島県の支える人材を育てるということをやっています。

分野としては17分野あって、子供・子育てとか教育とか、環境とかいろいろなものがあります。

以上ですが、具体的なそれぞれの施策について語ると36時間ぐらいかかる。一つ2時間はありますからやめておきますが、ベースに貫いているのはそういう考えということで御理解いただければと思います。

司 会： ありがとうございます。

ここで感想を求められると困るかもしれませんが、沖本さんが何か意味深な顔で私のほうを見ている。

沖 本： 知事の今の発表につきまして、何か御意見とか御感想ございましたらお願いします。何か本当に難しいことをすごく複合的に考えられているんだなと思って、いかに自分が浅いかなと分かりました。

司 会： でも広島に生まれ、育ち、働いて良かった、広島県。働くのはこれからだと思うのですが、広島に生まれ育ち、ここまでで良かったことと違って沖本さんどうですか。

沖 本： 後で祇園北高校の方が語られると思いますが、やっぱりスポーツが盛んだったというのがあって、昔からカーブだったり、旧市民球場の時代からお父さんに連れて行ってもらったりして、他の県にはない娯楽、スポーツ面での娯楽というのがすごく発展しているんだなと思ったりして、広島県で良かったと思いました。

司 会： 知事、広島スポーツ盛んですが、知事も普段は冷静にされながらも、カーブの内容で一喜一憂されたりとかあるのですか。

湯崎知事： もうひそかに朝、一喜一憂して、気持ちを整えてから来るようにしています。

司 会： それじゃあ最近、穏やかでいい試合が続いていると。

湯崎知事： むしろ興奮するんじゃないんですか。逆転劇とかね、良かったですよ。

司 会： こういった県を、みんなをつなぐような、心のよりどころがあるという一つ魅力がある。もちろんこういったテーマも出てくるかと思えます。

## 意見交換①

司 会： さてここからはテーマに基づいて、皆さんとともに話を進めていきたいと思えます。

テーマ一つ目は、広島での就職または起業、そして暮らしについてということですが、皆さん手元にホワイトボードを用意していますので、広島で就職とか

起業とか暮らしていきたいかというのを、知事おられますが本音で結構です、マルかバツか書いて見せていただいてもよろしいでしょうか。それではお書きください、お願いします。

二人一組のところは、合意形成をとりながらマルかバツか、民主主義的な感じでお願いしたいと思います。早いですね、皆さん書けました？

それではこの後も広島で仕事をして、そして起業したり暮らしていきたいかどうか答えをお願いします。上げてください、どうぞ。

はい皆さん、仲間を見渡してください。

知事、一人バツがおられますが、これはちょっと逆に言い分、聞きたいですよ、バツとされた沖本さん。

湯崎知事： そうですね。僕も人のこと言えないので、大学ときには東京へ行きましたから、就職も東京でしましたから。それはそれぞれあるから。

司 会： 1回下ろしていただいて、沖本さん思うところとか。

### 参加者①

沖 本： 先ほど広島の未来を担う高校生と言われたのですが、担う気があまりないかもしれない。  
司 会： どうしてですか。

沖 本： 他の県とか旅行したり、他の都市とか行ったときに、やっぱりどうしても活気が少ないなというのが一つ思ったところで、大人になっても楽しく活気あるところで過ごしたいな、住みたいなと考えたときに、東京とか関東圏、関西圏に住んで、人の活気だったりイベントだったり、後でちょっと話させてもらうのですが、そういう部分で広島にこのまま住み続けるとなると、やっぱり物足りないと感じるから、バツにさせていただきました。

司 会： これは沖本さんのお考え。

一方で広陵高校、掛川さん、迷わずいち早くマルとされましたが、掛川さんどうですか。

### 参加者②

掛 川： 暮らしていて不便だと思ったことがないし、原爆ドームや宮島といった世界遺産が複数ある県なので魅力的と感じているのと、神楽があるので離れたくないからです。

司 会： そうか、後ほど話に出ますが、全国的にも獅子神楽は人気ですね。

湯崎知事： そうですね。広島的神楽ってとっても特徴的だし、小さい頃から携わって舞っている子たちもたくさんいるので、それがずっと続いてほしいですよ。

司 会： こうなってくると人生の価値観によって、皆さんマル、バツが出てくるのだろうなとも思うのですが。それでは大竹高校のお二人どうでしょうか。

### 参加者③

佐々木： 私は田舎でもなく都会でもなくちょうどいいし、あいさつをしたらあいさつを返してくれる温かい人が多いからです。

司 会： 確かに知事、よくスポーツ選手など移籍が激しいですが、聞くと「広島ちょうどいいです」と、「大好きです」と長く住まれる方多いですが、どうですか、その辺の魅力って逆に語りにくいところあるじゃないですか、大都会ですとか、すごくのどかですとか、真ん中でバランスがとれています、ここのアピールの難しさとか、あるいは魅力とかどう感じていますか。

湯崎知事： それは例えば、広島ってなんでもあるみたいなのところがあって、なんですかって言われたら、いっぱいいろいろと上がってきて、なかなか説明が難しいということはありませんよね。

司 会： なんでもあって本当にバランスもいいと思うのですが、それでは沖本さん戻しますが、沖本さんはちょっとそれでも足りないというか、その辺りはどうですか。

沖 本： 物足りないです。

司 会： 後ほど話してもらいますが、それじゃあ例えば、何と何と何と何ぐらいがあったら、あともうちょっとぐっときますか。

沖 本： やはり遊園地とか、高校生だし遊べるところというのが、今だったら ROUND1 とかカラオケとかしかかないから、その辺があったらいいなと思っています。

司 会： そうか遊園地、どうですか遊園地あったほうがいいと思う方は、なにか遊園地の誘致活

動みたいになっていますが。

知事、そこは政策うんぬんとかではなくて、こういった若い人たちとか、子育ての早い段階の方が家族で遊んだりする場所という声、やはり届いたりされますか。

湯崎知事： 遊園地がないというのはよく言われますよね。特にファミリーで遊びに行くところがないということもよくあるのですが、それもやはりどういうしこうというか、どういうのが好きかにもよると思うのですよね。

ディズニーランドは当然ないし、ディズニーランドみたいなものではなくても、そういうのはないけれども、例えばキャンプに行きたいとか、釣りに行きたいとか、そういう自然の中で遊びたいというところとすぐそこにあるし、スポーツやりたいといたら、それこそ東京だとテニスやるっていったら、テニスやるのも結構大変ですよ。コートを予約してすごく高くて、でも広島ならどこでもその辺でできるし安いし、後はもっと大人になって、例えばもうちょっとお金持ちになったら船を持ちたいとかというのも、東京だとそもそも船を置けるところが、多分東京から1時間半くらいかかる葉山とかで、葉山で船を持つと大体毎月30万円くらいかかりますとか。広島だったら2万8,000円ですとか。

だから何を求めるかによって違う。だからそこは価値観があるので、価値観が違う人に、いや広島好きになれよと言ってもなかなか難しいし、若い頃はいろいろと経験をするべきだと思うので、自分の追求してみたい価値を、やはり追求してみるということは、とても大事なことだと思うのですよね。

だからマルとかバツとかということは気にする必要はないし、広島にいないと広島に貢献できないというわけでもないし、そう言いながらも沖本くんなんかも、例えば仮に東京とか行ったら、多分東京で広島の自慢いっぱいするんですよ。広島人の特徴で、すぐに集まって赤ヘル会とか作って、そういうことやるんです。

司会： そうですね。東京の大学生とかカーブにかこつけて、すぐに集まったりしますものね。

湯崎知事： そうそう。就職してもそうですからね。

司会： 東京の出版社に出版カーブ会というのがあって、なんなんだこれはという。合宿があったりするんです。

湯崎知事： 各銀行にも必ずあるし、メーカーにも大体あるし、あと県人会もでかいですから。

司会： そうですよ。

私個人でいうと、確かに20代のとき遊園地ないのは考えましたが、年々しっくりくるのは広島県かなどこれは個人の感想です。年々しっくりくるなど、沖本くん私はそんなふうに思っています。

祇園北のお二人マルとしていただきましたが、代表して聞いていいですか。

#### 参加者④

室元： 私が広島に就職したいと思った理由は、広島はスポーツが盛んだからです。例えば野球であったりサッカーであったり、バスケットボールであったりバレーボールであったり、プロのチームやリーグがあったり、僕は小さいときから野球をやってきたので、将来、広島野球の発展に指導者として携わりたいと思い、広島に就職したいと思いました。

湯崎知事： 実際にそのスポーツに携わる仕事をしたいということなんですね。

室元： そうです。

湯崎知事： なるほどね。

司会： 祇園北高校、実際、去年の夏の広島大会準優勝ということで文武両道で頑張られて、何かあれですよ、野球選手になりたいだけでなく、将来、球場の設計士になりたいとかケアのほうに行きたい。

鈴木さん、ケアとかやりたいんですよ。

#### 参加者⑤

鈴木： 私も室元くんと同じくスポーツが大好きで、将来の夢が看護師になることなので、やはりスポーツには選手のサポートだったり、医療の力が必要になってくると思うので、広島の有名なスポーツの盛んな中で、私も医療に関わりたいなと思ったから広島に残りたいです。

司会： うれしいですね。

湯崎知事： 広島は有名なトレーナーさんとかも、たくさんいらっしゃいますし、全国から集まってくるような、そういう人もいますよね。

- 司 会： ちょっと前まで、スポーツって勝つか負けるかだけって言われがちですが、強いだけじゃなくて、今、県のスポーツ推進課もすごく頑張っているらしいんですが、そこから街の勢いとか、あるいはそこから産業の発展とか、かなり裾野が広がっていくような努力もされていますよね。
- 湯崎知事： そうですね。スポーツっていうのは、特にみんなが応援するようなものは、典型的にはカーブですが、やはり元気が出てきますよね。  
これもまさにチームっていうか選手だけじゃなくて、それをサポートするすごく裾野の広いものがありますから、栄養士さんとかそういう人たちも含めてね。だからとても地域の活性化につながるものだと思います。
- 司 会： ちなみに二人野球部なのですが、知事、聞いてよければ、知事は高校生時代、部活動とか。
- 湯崎知事： 高校のときはバスケットでした。
- 司 会： バスケット。
- 湯崎知事： 小学校のときは野球をやっていました。僕もぼうず頭で。
- 司 会： 知事、室元さんみたいな髪型だったのですか。
- 湯崎知事： もうちょっと短かったです。
- 司 会： もうちょっと短かった。どうして野球からいつの間にかバスケットにシフトされたのですか。
- 湯崎知事： そう突っ込まれても困るんですが。何かずっと変わっているんですよ。  
中学のときは硬式テニスをやっていたし、高校からだんだんと激しくなるスポーツにシフトしていったんですよ。
- 司 会： 昔、同じような丸刈りだったと思うと、親しみがわきますよね。
- 室元： そうですね。

## 意見交換②（話題提供）

- 司 会： いろいろと将来に向けて聞いていったのですが、ここからは二つ目のテーマということで、知事に、今日、高校生の皆さんが話題提供ということで、発表を用意してくれていますので、いろいろと発表を聞いてそこから話を広げていきたいと思えます。  
まずはトップバッター、広島学院3年生の沖本英太郎さんをお願いしたいと思います。  
スライドも用意してくれていますので合わせて御覧いただきながら、沖本さんのまず話題提供ということで。
- 沖本： 聞きたいことは二つあって、一つ目は、広島県を魅力的な県にするためにはどうしたらよいかという点。二つ目は、このパワポの中で説明したいと思います。  
よろしくをお願いします。  
高校生が感じる、ここが変わって欲しい広島ということで、僕の個人的な偏見の意見をまとめてみました。  
まずこちら、知事はお知りになっていると思うのですが、人口流出が引越しとか転出とかあって、さっきのパワーポイントにもありましたが、広島県が全国最多と、これは人口が違うため一概に比較できないとか、工場の閉鎖だったりとか、若者が出ていっただけではないということは、一応、先に言うっておかないといけないと思うのですが。  
他にも僕の学校でインスタグラムの投票機能使って、広島県から将来出ていきますか、出ていきませんかみたいなアンケートをとったのですが、80%を超える数が広島県から出ていくと言っていたので、「おおー」ってなって「僕もやけど」みたいに、「大丈夫か」と思って。  
僕がその中で、なんで若者が出ていっちゃうのかというのを、僕の意見も合わせて2つのポイントでまとめてきました。まず大規模ショッピングセンターの相次ぐ開業という点なのですが、これは広島都市圏の中なのですが、これだけ2000年以後だけで、こんなに郊外型のショッピングセンターが建っていて、これは多分、ベットタウンに住んでいる人とか、郊外に住んでいる人というのはそれは便利になるし、僕もフジグラン緑井はよく利用するのですが。人口はそんなに広島県、広島市も微増しているだけなので、それだけ商業施設ができると、この紙屋町、八丁堀というのは人が集まりにくくなってきてしまうから、やはり活気がなくなってくる。  
次は、ライブツアーが来ないということで、まず一つ目、大型ライブが来ていないのではないかとということで広島と仙台。これはなぜ仙台と比べたかということ、人口規模が似て

いるのと、東京から1時間というのと、大阪から1時間というので、それで一番いい比較対象になるかなということ、まとめさせていただいたのですが、キャパ4000人以上の2ホールだから、ツアーで広島に回ってくるか、仙台に回ってくるかというので見やすくしました。

上が仙台で下が広島なのですが、やはりあまり回ってきていないという現状がデータを計ってみて、グラフ化してみても分かったというのがあります。

二つ目、これは大型ライブハウスが少ないというのがあって、例えばZeppっていう6都市8カ所にあって、Zeppツアーっていうのをやるバンドも数多くいて、それはやはりZeppツアーとなると、「あー」って僕もなったりしちゃうので、ライブツアーっていても、ライブって広島ですごく有名なアーティストさんとか、いっぱいいらっしゃるから、だからこそ、そういうのをうまく生かして盛り上げていけば、わざわざ大阪とか関東に住まなくても、広島でライブにも行けるという面もあって、若者が残ってくれるのではないかと思います。僕もそれになってくれれば残りたいかなと思います。

それでもそれだけの理由で全国最大になるのかなと僕も思ったのです。例えば広島よりも、もっと活気がない地域だっていっぱいあるわけだし、ここはほぼほぼ広島市の話を見せていただいているのですが、広島で人生を過ごしたり、新しく広島に住もうとする人を増やすためだったら、僕の考えとしては、まず広島の顔になるわけで、県外から観光で来た人って、別にイオンモールには行かないわけじゃないですか、ここらでおいしいもの食べたりとか、どういう街なのかというのを見てくださるわけだから、まずは広島の顔という。

都心部が今まで以上に、人々が集まりにぎわう街になっていけば、そのぶんだけ広島県から中心部に人が集まるし、中国・四国地方から人が集まるし、人が集まるのだったら、イベントだったりとかライブだったりというのも、それを見込んでますます増えていくだろうし、そうしたらイベント増えたねって、広島県に残ろうと思う人も増えてきてくれるんじゃないかなと思って、まずは広島の都心部を今まで以上ににぎわう街にさせていただきたいなと、させていただきたいなって、すごく上から目線ですが、個人的に思いました。

ちょっと未来の広島の話、実際に今、街中を都心部を発展させようとはなったのですが、今ますます、いろいろな再開発とか国土交通省の、すみません、ちょっとど忘れしちゃいましたが、税緩和みたいなもので、土地がうまく再開発するように流れが今、起きていると思うのですが、例えば駅ビル、広島の顔となる新駅ビルが開業したりとか、160メートルビルだったり、新サッカースタジアムも、今も建設でいっぱいクレーンがきていますけど、それじゃあこのままの勢いで、僕がって言ったら偉そうですが、いい広島、いい街になったなと思えるように、ぜひお願いしたいと思います。

最後、すごく直接聞きたかったのがこれで、県庁って割と古いじゃないですか、その僕はデザインは好きなんですけど結構味があって。やはり今の県庁で、役所の再開発とか見ていると、役所の人だけでじゃあなくて、市民が集まる、県民集まれるような公園とか広場を併設した特徴的な建物で、広島のシンボルとなるような建物も建っているの、ぜひ今、この広島再開発で盛り上がっていると思うので、県庁の建替えもいつになりそうですか。ちょっと聞きたいなと思いました。僕はこれで以上です。

司 会： ありがとうございます。

沖本さん、高校3年生と聞いていたのですが、何かジャーナリストの方かと。

知事どうですか、このプレゼンといいますか、発表の内容とかすごいですよね。

湯崎知事： すごくまとまって数字も使って絵も使って、うまくプレゼンしてもらっているなと思いますし、本当に真実をついているところがあって、広島、これだからあまり言うと広島市批判みたいなので、広島県は広島県なので広島市ではないので、広島市が担っているところもたくさんあるわけですが、その広島市内、特に中枢ですよ、広島県の中の、文化施設が、仙台とか福岡とか札幌と比べると非常に薄いんですね。それは今のライブ施設もそうですし、実は大学もそうですし、大学もほとんど郊外にあるので、いちばん近いのでも、すごく小さいのだったらエリザベトとかね。最近、叡啓大学というのも作りましたが、県大も南ありますが、少し大きめの大学というのは周辺にも行っているし、広大は遠いところにあるとかね。そういう文化施設、映画館とかそういうのが少ないのでそれで若者が少ない。それでそういう課題がある。

今ちょうど、いっぱい再開発ありましたが、戦後1960年代～1970年代ぐらいにかけて、今この街ができていて、最初の45年からワンサイクルがあって、それから1970年代ぐらいに、またワンサイクルがあって今になっていて、今ちょうど再開発のタイミングな

んですよ。これまではすごく小さいビルがいっぱいあるんですよ。例えば銀行なども多くて金融機関。土日とか閉まっちゃう。あとオープンになっていない1階ね。今は近代的な街というのは1階がオープンになってきているので、ここのそこにすぐある、ひろぎんとかも再開発のときに、1階をオープンにしてくださいとお願いをして、そういうふうになったのです。だからこれからそういうものが増えていきます。

本通りの入り口のところにも、この再開発の案件ありますし、サンモールのところもあるし、他にも実はいくつかあって、それをまとめるための広島都心会議というのも、これは5、6年かけて民間の皆さんとできて、広島まちづくりどうするかというの考える組織もできたのです。これは去年から活動始めているのですが、そういうところでグランドデザインを書きながら、やっていくということになっているので、これからどんどんすてきな街に広島市はなっていくのではないかと思います。

あと県庁について言えば、県庁の建替えは多分20年後～30年後になると思います。県庁、最近耐震化をして中をすごくきれいにしたのですよ。だから中に行ってもらおうと思うのですが、こういう（イノベーションハブ Campsのような）雰囲気ですよ。

それなので行ってもらおうとすごくすてきで、受付も今ハイテクでアバターが対応してくれたり、後は非接触型の浮き上がるディスプレイでこうやってやるとかね。いろいろなことになっています。

一番の問題は、あそこは建て替えると、大きい建物を建てないといけなくなるので、そうすると今ある民間の再開発が逆に止まっちゃうんですよ。つまりあまり大きいのを建てると、いろいろなオフィス需要とかを吸収してしまうので、そうすると民間の再開発が進まないで、むしろ県庁などは最後に再開発をするという考えで、今はやっているのでも20年～30年後になると。

司 会： いきなり沖本さんが結構ピンポイントの話題をやってくれたので、本当に話に花が咲いたのですが、実は知事、沖本さんもっと聞きたいことがあったのですが、沖本さんの持ち時間1分くらいしかないのです。大急ぎで本当にもう1個聞きたいこと、知事に聞いてください。

沖 本： 先ほど広島から出ていくとは言ったのですが、もう一つ夢があって、将来広島を発展させられるよう役に立つ政治家を目指しているのですが、やはり知事は広島の県知事を長年やられているじゃないですか、だから政治家となって実際、首長として将来動かしていくには、どうしたらいいのかなと、今のうちに（やっておいたほうがいいこと）とか、すごく聞きたかったのです。

湯 崎 知 事： それはいろいろな道があると思うのですよ。だから僕も高校生のときに、知事になりたいとか政治家になりたいって全く思っていなかったし、なる直前ぐらいまで全く思っていなかったのですが、でも結果として自分がそれまでしてきた経験だとか、あるいは知識だとか技能的なものっていうか、そういうものが役立つなと思ったので知事になろうと思ったわけですが、逆に言うと、そういう自分の何を持って政治をするのかということがないと、ただ政治家になりたいということになるので、自分の強みを作っていくと、それが何であれ、それが大事なことじゃないかなと思いますね。

沖 本： すごくいい話と、僕が見聞がすごく狭かったなと改めて思いました。直接聞けてよかったです。ありがとうございます。

司 会： ありがとうございます。  
沖本さん、どうもありがとうございます。

続きまして、広陵高校2年生の掛川碧生さんですが、この後出づらいですよ。緊張しますよね。それでは掛川さんも1回深呼吸して、知事に自己紹介と聞きたいことお願いしたいと思います。

掛 川： 広陵高校2年生の掛川です。

私は神楽が大好きです。自分は3歳のときに初めて祖父に連れられ神楽を見に行きました。そこで神楽の魅力を知って、そこから1人で見に行くほど好きになりました。

去年の11月に宮乃木神楽団に入団し、今は週2回通って初舞台を踏めるように猛練習中です。

知事には広島県の伝統芸能ともいえる神楽の魅力を知っていただきたいのと、その魅力を県内だけではなく県外、もっというと世界に広げていくためにはどうしたらよいかを聞きたいです。まず知事は神楽についてどんな印象をお持ちですか。

湯 崎 知 事： 広島神楽というか石見神楽というか、西側の神楽は、とてもなんていうんですかね、言葉を選ばなければいけないのですが、勇壮な感じで華やかですよ。神楽というのは日

本全国にあるわけじゃないですか。だけど広島的神楽みたいな演劇性だとか華やかさがあるところというのは少なく、そういう意味では抜きん出た存在だだと思いますよね。

司 会： うれしいですね、こう言ってもらおうと。

掛川くんは神楽のどんなところが好きなのですか。

掛 川： 舞う人やお客さんや、もっといえば神様。神様と一緒に楽しめるので、そこが好きです。

司 会： 実は掛川くん、皆さん見てもらってもいいですか。メディアでも紹介してもらっていますよ。これすごいでしょ、神楽の RCC のニュースなんですけど、掛川さんが出てきますよ。はいここ。室元さん見ていました？ 鈴木さん。

もう一回いきます。RCC のニュースで、掛川さん神楽大好き、頑張っておられる、メディアに取り上げられたっていう。これがこれから、どんどんセンターにきますので。せっかくなので掛川くん何かやってもらおう、さわりだけでもお願いすることってできますでしょうか。

掛 川： できます。まだまだなんですけど。

それでは滝夜叉姫という演目の、大宅中将光圀という登場人物の口上と舞を披露します。

司 会： お願いします。

(舞) (01:03:30~01:04:38)

掛 川： どこまでやればいいですか。

司 会： それではここまでで、ありがとうございました。

知事、感想を、いかがだったでしょうか。

湯 崎 知 事： 口上もしっかりしているし頑張っているなという。本当、触りのところだから、クライマックスのところはくるくる回ったりして、とってもダイナミックですがね。

本当に素晴らしいです。若いみんなが伝統を継承してくれているなというのは心強く思います。

司 会： 僕は、どこまでやればいいですかという切り返し、メディアの仕事とかやったらいいんじゃないかなというのが、すごい伸びしろ。

室元くん同じ高校生で、見ていてどうだったですか。

室 元： 実は僕、小さいときに神楽をやっていたんです。

司 会： やりますか。

室 元： セリフを覚えられないので、囃子というか演奏をやっていました。

本当にすごいなと思います。

司 会： 掛川くん、神楽の魅力を県内だけではなく、県外にも広がっていけばいいな、そういう思いということなのですか。その辺どうですか。

掛 川： 県が民族芸能の調査を久しぶりに行うというニュースを見たのですが、これに神楽も含まれて、将来に向けて神楽を大切にしていこうということなのでしょうか。

湯 崎 知 事： 当然、神楽は大きな要素ですから対象に入っていると思いますし、そこが具体的な調査が何かというのは、今、僕は把握していないのですが。その文化に県内の文化活動を、今どういうふうに進捗するかというので、いろいろな調査をしていて、多分その一貫の話なのだと思うのですが。それは神楽は間違いなく、県の中で非常に重要な伝統文化の一つですよ。

司 会： こうやって聞くと、ますます掛川くんも練習に力が入ると思うのですが、最後にもうひと押し、知事に言いたいことがあるということなのですか。

掛 川： 神楽は広島にとってなくてはならない伝統芸能です。これを絶やすことなく、むしろ広島神楽が全国に広がるように、支援をしていただきたいです。

湯 崎 知 事： 今、コロナですごく大変なのですよ。上演の機会もすごく減っていますし、門前湯治村なんかでもできなかつたりということで、そういう意味では継承に大きな支障が出ている。だから早くコロナを乗り越えていきたいと思ったり、世界にということやうと、例えばブラジルに広島県人会あるのですが、そこの神楽部というのがあって神楽をやっていたり、あとはメキシコのグアナフアト州というところと、広島県は姉妹関係にあるのですが、そこに神楽団行ってもらったんです。現地で神楽舞ってもらったら、地元のメキシコの人たち全員スタンディングオベーションですごく受けるし、観光でも市内で英語の字幕を付けて、外国人向けに神楽の上演なんかも定期的にやってもらっている。

今はコロナでないのですが、そういうところでも、すごく皆さん喜んでもらえるので、本当に多くの人に知ってもらって、海外の人も含めて広島神楽、広島に来たら神楽を見たいと、そういうふうになっていくように我々も頑張っていきたいと思ったり。

掛 川： ありがとうございます。

司 会： 掛川くん、すてきな話題提供ありがとうございました。  
掛 川： ありがとうございます。  
司 会： よかったら1人、室元くん勧誘してもらっていいので、仲間増やしてもらって、体力ありますからお願いしてみてください。  
続いてですが、大竹高校からお二人、藤川琴美さんと佐々木笑花さん。  
それでは二人から、知事に自己紹介と聞きたいことをお願いします。

## 参加者⑥

藤 川： 大竹高校3年生、藤川琴美と。  
佐々木： 大竹高校3年生の佐々木笑花です。よろしくをお願いします。  
藤 川： 私たちは大竹駅でマナー向上と事故の注意を呼びかける構内放送を日本語、韓国語、中国語、英語の4カ国語で収録して、それが今、駅で流れています。  
これを行ったのは地域の方々への感謝の気持ちや、広島に来られる外国人の方に快適に過ごしてもらえるようにと思ったからです。実際に収録したものを御覧ください。  
司 会： 実際の収録の様式です。  
(収録映像) (01:10:12~01:11:40)  
司 会： このように頑張っておられるということで。  
こういうことを頑張ったのはどうしてだったのですか。改めて知事にその思いを伝えてもらっても、どうでしょうか。  
佐々木： このような形で外国の方向けに行ったのは、もっと広島にたくさんの外国の方に訪れていただきたいからです。  
そこで知事としては、もっと多くの外国の方が広島に来るためには、どうすべきだと考えていますか。  
司 会： 知事、その辺りをお願いします。  
外国の方に広島にもっとたくさん来てもらうためには、今コロナですがそこはちょっとよけておいてという話ですが、いかがでしょうか。  
湯崎知事： そうですね、やはり広島が持っている魅力を、一つ一つ磨いていくということが一番大事なことだと思うのです。  
特にコロナの後の観光というのは、大きく変わっていくと思うのです。これまでは、たくさんの人が、わあと来て有名なものを見に来る。例えば富士山だとか、広島県でも原爆ドームとか宮島とか見に来る。そういうものが多かったと思うのですが、これからもっともっと、本当の日本ってどんなところなのっていうことを知りたい。日本の歴史ってどうなの、日本人の暮らしてどうなのみたいなことを知りたい人がたくさん増えて、しかも少人数で比較的長く滞在するというパターン。そういうふうに変わっていくと思うので、何気ない日常みたいな、そういうことがとても大事になると思うのです。  
そういうことを分かってもらえるような、特に広島でそれがいいなと思ってもらえるようなものを分かりやすく提供するというか、磨いていくということが、とても大事なことだと思います。  
もちろんそれを知っていただく必要があるので、この知っていただくための活動も、どんなにいいものがあったとしても知られないと来られないので、それを知っていただくための活動もやっていくことが必要だと思います。  
それで実はそういうことなので、皆さんがやってくれたような、外国の言葉での案内みたいなこともすごく大事で、それは外国語でやるのが大事だということではなくて、それはもちろんそれで大事なのですが、その心としては海外から来た人にしっかりと楽しんでもらいたいとか、不便にならないようにサポートしたいとか、そういう気持ちがあるわけですね。それこそがおもてなしなわけですよ。来たお客さんが困ること、必要だと思うこと、こうしたいと思うこと、それを実現してあげるように手助けしてあげるということが本当のおもてなしなのです。  
何かおもてなしというと、よく無料でコーヒーサービスしますとか、そういうふうに変えがちなのですが、そういうことではなくて、コーヒーほしくない人にコーヒーわたしたってしょうがないじゃないですか。広島のこれがいいんですよといって、相手が興味がないもの押し付けても、それはおもてなしではないので、やはり相手のことを思いやって、その相手が気持ちよく過ごせるとか、それが本当のおもてなしなので、こういうふうに変えがちなように助けてあげるというのは、本当の意味でのおもてなし。それをみんな

- なが、多くの人がやっていく必要があるのだと思います。
- 司 会： 知事の話聞きながら、先ほどまで県庁の建替えがと言っていた沖本さんも、うんうんとうなずいて、今の話、グッとくるところあったんじゃないですか。今のリアクション見ると。
- 沖 本： すごいおもてなしの話もそうだし、大竹高校の皆さんがやられている活動がすごく立派で、立派でって上から目線ですが。結局、コロナ禍の後のことも考えてくださっているし、ちょっとごめんなさい言葉が出てこない。感動しました。
- 司 会： 本当、何をするかではなくて、何を思って行動するか、思うところが結構抜けていたり僕もしたので、すごく刺激を受けました。藤川さんも何か知事に伝えたいこと、聞いてみたいことがあるということなのですが、いかがですか。
- 藤 川： 私は将来も広島で働き、暮らし続けたいと思っています。  
そんな中、私たちにとって20年後、30年後の将来の広島がどうなっていくのかに興味があります。知事のビジョンが聞きたいです。
- 司 会： 知事、お願いします。
- 湯崎知事： なかなか20年後、30年後というのを、具体的に言うのは難しいところがあるのですが、大事なことはやはり一つは、しっかりと働く場があるということじゃないですか。  
今は例えばマツダだとか有名な企業たくさんあるし、そこで仕事もたくさんあるのですが、そういうものは変わっていくし、時代に応じて仕事が変わっていくのに、ちゃんとついていかなければいけないですよ。だからそういうふうについていける。我々、実はイノベーション立県とっているのですが、新しい価値を生んでいくような、イノベーションという言葉、聞いたことがあると思うのですが。それが次々に生まれていくようなそういう県にしたい。それでしっかりと仕事が続いていくというか、新しく必要とされる仕事次々に生まれて、みんながしたいと思うような仕事次々に生まれていくというところを目指しています。  
一方で暮らしというの、すごく大事なことなので、今、欲張りって言うのを言いましたが、それはどういうことかという、広島ってカーブもサンフレッチェもドラゴンフライズもとかね、海も山もとか、レモンもリンゴもとか、海水浴もスキーもとかあるわけですよ。めちゃくちゃ欲張りなんですよ。  
それで仕事も暮らしもっていつているのですが、坂上さんも、ややそこに引っかかっている世代だと思いますが、僕らは最初、就職した頃24時間働けますかっていう、そういう世界。
- 司 会： そっちですね。徹夜を自慢したりとか。
- 湯崎知事： そうそう。それは何をしているかという、暮らしを犠牲にして仕事をやるという。  
今そうじゃなくて、仕事も大事、人生のすごく大きな部分占めますよね。暮らしも大事。暮らしを犠牲にして仕事を頑張るとか、仕事を諦めて暮らしを大事にするとかいうのではなくて、自分のやりたい仕事、それから自分の人生の中で、仕事ではないプライベートな部分で大事なものを。それを両方、自分の希望がかなうような、そういう県にしていきたいと思っているので。  
暮らしの面でも、いろいろと女性活躍だとか、みんなはあまり覚えていないかもしれないですが、もう10何年前に育児休暇、育休とか全国の知事で初めて取ったのですが、その子が今、小学校6年生になっているのですが、そういうことだとか、男性が育休取るということを推進するとか、医療を充実させるとかね。そういうこともしっかりとやりたいなと思います。
- 司 会： もう沖本さんが最初バツって書いたのに、マルにして広島にずっと残りたいと言い出すんじゃないかなと思うくらい。でも変わってきたでしょう、表情見ていると。
- 沖 本： 何かすごい思ったよりっていったら失礼ですが、すごく広島のこと県知事さんいろいろな視点から、いろいろな視野から考えてくださっていて、そうなるくと、やはり自分が見えていなかった。  
広島県のビジョンとか、いろいろな魅力とかも、今神楽だったりとか、いろいろと説明していただいて、やっぱり広島っていいなって思い始めている自分が…
- 司 会： うれしい。
- 湯崎知事： 坂上さん、無理やり言わせていないですか。
- 司 会： 説得する場みたい。それでも何か流れるに僕もストーンと入っていくような感じなのですが。  
やはり学生の皆さんは、そういった未来に向けての準備ということで、勉強ということ

になってくると思うのですが、藤川さん、今後どんな勉強をしていきたいとか、計画があったら教えてほしいのですが。

藤川：これから大竹高校では、西国街道のことについて勉強を進めていこうと思っています。そして高校生サミットをしていただければなと思っています。

司会：それは聞いていなかった。そうなんです。ちらっと知事のほう見られましたが。

湯崎知事：高校生サミット？ 高校生サミットってなんだろう。

藤川：他の高校でも勉強されているところがあるらしくて、いろいろな高校が集まって話を共有する場。

湯崎知事：西国街道の高校生サミット。なるほど。

司会：当然ここでは結論出せませんが、知事の頭の隅には、これは残りましたものね。

湯崎知事：企画をしてほしいですね。今、何年生だっけ。

藤川：今3年生です。

湯崎知事：3年生、あと半年ぐらいしかない。ちょっと頑張っけて企画してもらって。そんなに大々的じゃなくても、3万人集まりますとかじゃなくてもよければできるかもしれないですね。

司会：そうですね。RCCも全力で応援したいと言いたいところですが、公式の発言ではごいけません。大人が応援するのは務めですから、知事なにかしらっていうところでは、我々も気持ちの上でというふうに思っております。

ありがとうございました。

ちなみに皆さん、お二人はこのように新聞の記事にも取り上げられております。すごいなと思って、有意義なことやっていますので、ぜひ高校生サミットとか、一つ一つ夢をかなえてください。ありがとうございました。

最後の話題提供なのですが、欲張りというところの方針でいくと、そういう欲張り感の非常にある祇園北高校だといういい意味で。話題提供と自己紹介をお願いします。

室元：祇園北高校3年の室元と。

鈴木：同じく祇園北高校3年の鈴木です。よろしくをお願いします。

私たちが広島県立祇園北高等学校は、効率と両立というテーマで湯崎知事とお話してみたいと思いました。

祇園北高校には普通科普通コースと普通科理数コースがあり、普通科理数コースでは理科、数学の知識を生かした探究活動を行っています。理科・数学の知識を生かした研究はデータサイエンスと呼ばれています。

室元：それでは本題に移ります。テーマは効率と両立です。

私たちは部活動探究って効率がいい、部活動探究でまさに学業と部活動の両立だということに気付きました。

私たちが行った研究は、ベースボールトラッカーを用いたピッチングのセオリーに関する研究を行いました。ベースボールトラッカーとは試合でデータを取得し、ベースボールトラッカーのソフトに入力することで、データの集計結果が降りてくるというものです。

真ん中の画像を見てください。この画像は、ベースボールトラッカーの入力画面です。入力の順番は最初に球速、球種を選択し次に投球コースを選択し、最後に打席結果を入力するという順番でベースボールトラッカーに入力を行っていきます。

ピッチングのセオリーは高めの球は打たれやすく、低めの球は打たれにくいとあります。しかし私たちの研究結果により、本校エースは高めの被打率が0割だったことが分かりました。

このことから本校エースのピッチングは、セオリーに反して高めの球をどんどん生かしていこうという考えが生まれました。

私たちの研究で得たこの考えは、創部初の県大会準優勝を果たした一因にもなりました。

実はこのベースボールゲームトラッカーの導入も、紙でのデータ解析は時間がかかりすぎるという課題から効率を図った結果によりもたらされました。

鈴木：ベースボールトラッカーの研究以外にも、野球部のウスイ先輩は新しい練習方法の提案研究をし、物理の先生になりたいという夢を持ち、物理学科志望につながりました。またクロセ先輩はスイングと身体能力の相関について研究し、数学の先生になりたいという夢を持ち、数学科志望につながりました。オオタニ先輩は野球場の研究をし、設計士になりたいという夢を持ち、建築学科志望につながりました。ヒガシウラ先輩は食トレの研究をし、栄養士になりたいという夢を持ち、栄養学科志望につながりました。

研究活動と学問の両立、部活動をとおして夢が広がっていることがわかります。

- 室元： スポーツの研究だけでなく環境活動にも力を入れていますが、みんな自分の好きなことを探究できています。
- 鈴木： 実際に私も総合的な探究の時間に、自分の将来の夢である看護師について研究をしました。
- 室元： 湯崎知事、RCC 坂上さん、このような機会をいただきありがとうございます。感想を聞かせていただければうれしいです。ありがとうございます。
- 鈴木： ありがとうございます。
- 司会： 祇園北高校、去年準優勝で、強さの裏には何かがあるなと思ったら、やはりこういうことだった。  
知事、まずこの研究どうだったですか。
- 湯崎知事： 欲張りでいいですね。  
本当になんていうか勉強がストレートに生活だとか、リアルに自分たちがやっていることにつながっていることが、すごく身を持って理解できたと思うのですが、それ自体がすごいことだと思うんですね。  
勉強って、これまで勉強は勉強、他のことは他のことっていうふうになりがちなんだと思うのですが、それこそ我々の世代はそういうもので、「いい国つくろう鎌倉幕府」それがどう私生活と関係しているんだと、あまり関係なく勉強させられたわけですが、そうではなくて本当にリアルな課題に勉強がつながっているんだと、それが理解してもらえたのはすごいし、その結果が野球の県大会に出ているというのは素晴らしいことだと思いますね。
- 司会： 室元さん実際選手として頑張って、研究と両方やっているわけなのですよ。本当に練習時間短いですよ。どんな感じでやっていますか。
- 室元： そうですね。グラウンド自体が小さくて、そのことから短い時間、1時間半くらいなのですが、その中で効率よくやっていくことを目指して日々練習をしています。
- 司会： そんな中、鈴木さんが知事にぜひこの部活動という文脈で聞きたいことがあるということです。
- 鈴木： 知事は学生時代に部活動の時間をどう過ごされて、また勉強と部活動の両立はどうされていたかをお聞きしたいです。
- 湯崎知事： 高校生のときね。高校生のとき、先ほど言ったようにバスケットやっていたのですが、そうですね、僕はこういうふうに、あまり考えてやっていたので本当に。なんとなく過ごしちゃったなと思いますので、だからお二人の取組はすごく尊敬します。  
だから部活動は部活動、勉強は勉強というふうに分かれていましたから、どうしても高3になるとやはり部活動は減るし、そういう感じでしたよね。
- 司会： そういった意味では祇園北高校さんうまいことしているのが、我々の時代っていうと、ちょっと前ってどっちを頑張るかだったのですが、理数コースという枠組みの中で、部活動の取組は文武一道と言っていっちゃるのですが、この辺の県としてのシステムの変化、これもバックアップとしては大きいと思うのですが、その辺りって今後こんなふうを考えていっちゃるというのは、いかがですか。
- 湯崎知事： そうですね、今は学びの変革ということを進めていて、学びの変革というのは、どういうものかという、知識を教えるということではなくて、自ら考える力を身につけていくということなのです。そういう意味では、リアルな課題とその勉強ということをひも付けて、実際の課題解決をどうしていくかということを通じて学問を身につける、そういうことを進めています。  
だからまさにそれを実践してもらっているんだなということが、僕もよく分かったという感じで、教えてもらってすごくよかったなと思ったのですが、今後どんどんそういうことが増えていくと思います。
- 司会： 室元さん、目尻が本当にニコニコになって、自分たちのやっていることをこう言ってもらえると、すごくうれしいと思うのですが、室元さんも最後、知事に聞きたいことどうでしょうか。
- 室元： 僕たち、データを使って研究したのですが、知事もデータを使って肥料をいつまくかとかやっているとおっしゃっていたと思うのですが、その他にデータを使ってやりたいことありますか。
- 湯崎知事： データを使ってやりたいことは、もちろんいっぱいあって、例えば政策についても、今、県庁で進めているのは、EBPM と呼ばれるものとかあるのですが、それは何かというと、エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。つまりエビデンスに基づく政策決定、そ

ういうものなのですが、つまりエビデンスというのはデータなので、何でもそうなんだけど何か政策をやるときに、例えばがん検診、こういう働きかけを行ったら、こういうふうにかん検診の検診率が上がりましたとか、こういう働きかけのほうがいいんじゃないとか。

これは例えば災害のときの避難、今、一生懸命呼びかけていますが、呼びかけ方も、こういうふうに言ったほうが、こういうふうに言うよりも効果がありますみたいな、そういうこともやっています。

データは今非常に重要で、データというのは 21 世紀の石油だといわれていますから非常に重要ですよ。

ちなみに今日、ディープラーニング協会という人たちが広島に来ていて、ここに来る直前、話をしていたのですが、ディープラーニング知っているよね。AI のアルゴリズムですが、今後どんどんそういうものが増えていくと思います。大学に行ったらきっとそういうことたくさん学ぶと思います。

司 会： 祇園北高校のお二人も、発表ありがとうございました。

気がつけば、あっという間に時間が近づいてきまして、本当は皆さんに感想を聞きたいところだったのです。

目があったので大竹高校の佐々木さん、みんなを代表してって、ハードル上げちゃいますが、一言、知事に今日の感想と何かお礼のメッセージがあったらお願いします。

湯崎知事： 楽しかったですか。

佐々木： 楽しかったです。いろいろな話が聞けて、いい経験になりました。ありがとうございます。

司 会： ありがとうございます。

では、藤川さんも一言。

藤川： これからの広島県についてたくさん知れて、これからが楽しみだなと思いました。

たくさんありがとうございました。

司 会： ありがとうございました。

お時間迫ってきましたが、湯崎知事改めて今日いろいろな話をしてもいただきましたが、高校生から聞いたということで御感想いかがですか。

湯崎知事： 今日こうやって出てくれた皆さんは、それぞれいろいろな活動していたり、思いを持って頑張ってくれているなどというので、なにかとても広島の将来明るいなって、改めて感じたのですが、広島にいるかどうかということは、実はそんなに大きな問題ではないというか、最終的には広島に戻って働いてほしいと思います。ただ、そうじゃなくても広島に他の県から来る人もたくさんいるし、県外で広島のことを応援する人もいるし、広島、本当によくなろうと思ったら、いろいろな経験をする人とか、いろいろなところに住んだことがあるとか、いろいろなことをやったことがあるという人が必要なんで、それぞれ、あまり遠慮しないで自分の思いを欲張りに追求してほしいなと思います。

司 会： 欲張り、キーワードですね、一つ今日の。

最後に湯崎知事、今日、皆さん参加してくださいましたが、配信でもたくさん高校生が見てくれていると思います。これから皆さんの地域にも行きますので、楽しみに待っていていただきたいと思います。

湯崎知事も高校生だった時代があったということで、最後に高校生の先輩として、一言熱いメッセージいただけますでしょうか。

湯崎知事： とにかく今、できることやりたいことを精いっぱいやってください。それがみんなの人生を作っていきます。

司 会： 分かりました。湯崎知事、今日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。

湯崎知事： ありがとうございました。

## 閉会

司 会： 以上をもちまして RCC スクール「湯崎知事と語ってみた」終了したいと思います。

配信はこういうとき終わりづらいので、私がオッケーですと言うまで、手をふってもらってよろしいですか。

それでは皆さんの地域も行きますので、皆さんの地域で会いましょう。さようなら。